

**KAGA ELECTRONICS  
CO., LTD.**

**2021年3月期（第53期）  
決算説明会資料**

---

**加賀電子株式会社**  
2021年5月27日

## 目次

- **2021年3月期決算概要** P- 3～

---

2021年3月期決算サマリー  
業績ハイライト/セグメント別概況  
バランスシート/キャッシュフロー/通期業績予想

- **経営トピックス** P-29～

---

2021年3月期総括/  
中期経営計画2021最終年度目標/  
加賀FEI・エクセルのPMI進捗状況/  
新型コロナウイルス感染拡大への対応/  
ガバナンス体制の強化/SDGs委員会

- **参考情報** P-39～

## 2021年3月期決算概要

常務取締役 管理本部長  
川村 英治

管理本部長の川村でございます。  
平素よりは特別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。  
また、本日は、決算説明会にご参加賜りまして、厚く御礼申し上げます。  
それではこれより2021年3月期の加賀電子株式会社決算説明をさせていただきます。

## 2021年3月期決算 サマリー

<p>2021年3月期 実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 売上高は、主要取引先との代理店契約解消の影響残り前年を下回る。但し、その特殊要因除けば、コロナ影響も跳ね返して全般に堅調に推移。</li> <li>● 営業利益・経常利益ともに<b>前回予想を超過達成、2期連続で最高益を更新。</b></li> <li>● 当期純利益は、「負のれん益」計上し、<b>減損損失等織り込むも、大幅増益。</b></li> <li>● 1-3月期は需要の急回復に伴う販売増、販管費の抑制・縮減が進み、<b>計画を上回る着地。一転して増収増益。</b></li> <li>● 期末配当は、前回予想40円（普通配当30円＋特別配当10円）に「特別配当10円」を上乗せし、<b>1株当たり50円</b>とする。 ※中間配当30円と合わせた<b>年間配当は1株当たり80円</b>（前期実績は70円）</li> </ul>				
<p>主なセグメントの 概況</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="478 645 630 748">電子部品</td> <td data-bbox="630 645 1307 748"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部品販売ビジネスはサイプレス社代理店契約解消等の影響残るも、3Q以降は需要回復を取り込み、堅調に推移。</li> <li>・ EMSビジネスは医療向け、車載向けが年間通して堅調。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="478 748 630 837">情報機器</td> <td data-bbox="630 748 1307 837"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC販売ビジネスは、テレワーク、オンライン需要を取り込み伸長。</li> <li>・ 企業・商業施設向けに抗ウイルス・抗菌商材が堅調に推移。</li> </ul> </td> </tr> </table>	電子部品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部品販売ビジネスはサイプレス社代理店契約解消等の影響残るも、3Q以降は需要回復を取り込み、堅調に推移。</li> <li>・ EMSビジネスは医療向け、車載向けが年間通して堅調。</li> </ul>	情報機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC販売ビジネスは、テレワーク、オンライン需要を取り込み伸長。</li> <li>・ 企業・商業施設向けに抗ウイルス・抗菌商材が堅調に推移。</li> </ul>
電子部品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部品販売ビジネスはサイプレス社代理店契約解消等の影響残るも、3Q以降は需要回復を取り込み、堅調に推移。</li> <li>・ EMSビジネスは医療向け、車載向けが年間通して堅調。</li> </ul>				
情報機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PC販売ビジネスは、テレワーク、オンライン需要を取り込み伸長。</li> <li>・ 企業・商業施設向けに抗ウイルス・抗菌商材が堅調に推移。</li> </ul>				
<p>2022年3月期 業績予想と 中計目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 中計最終年の総仕上げとして、売上高は中計目標には乖離残すも取り下げず。<b>営業利益は3期連続最高益更新、計画達成を目指す。</b></li> <li>● 配当予想は、2021年3月期と同額の、<b>1株当たり80円</b>とする。</li> </ul>				



まず初めに、2021年3月期の決算サマリーについてご説明申し上げます。

2021年3月期の実績でございますが、まず売上高は主要取引先との代理店契約解消の影響が残りまして、前年を下回りました。

ただしその特殊要因を除けばコロナの影響を跳ね返して、全般に堅調に推移いたしました。営業利益、経常利益ともに前回予想を超過達成、2期連続で最高益を更新しております。当期純利益は、負のれん益を計上し、減損損失等を織り込むも大幅増益でございました。1～3月期は、需要の急回復に伴う販売増、販管費の抑制・縮減が進み、計画を上回る着地、一転して増収増益となりました。

期末配当は、前回予想40円（普通配当30円プラス特別配当10円）に、特別配当10円を上乗せして一株あたり50円といたします。

中間配当金30円とあわせた年間配当は、一株あたり80円となります。

前期実績は70円でございました。

主なセグメントの概況でございます。

部品販売ビジネスは、Cypress社代理店契約の解消等の影響が残りましたが、第3四半期以降は、需要回復を取り込み、堅調に推移いたしました。

EMSビジネスにつきましては、医療向け車載向けが年間を通して堅調でございました。

続いて、情報機器ビジネスにつきましては、PC販売ビジネスは、テレワーク・オンライン需要を取り込み伸長いたしました。

企業・商業施設向けに抗ウイルス・抗菌商材が堅調に推移いたしました。

2022年3月期、業績予想と中計目標につきましては、中計最終年度の総仕上げとして、売上高は中計目標には乖離を残すも取り下げない方針でございます。

営業利益は、3期連続の最高益更新、計画達成を目指します。

配当予想は、2021年と同額の一株あたり80円とさせていただきます。

## 2021年3月期 業績ハイライト

\* 2021年2月4日公表

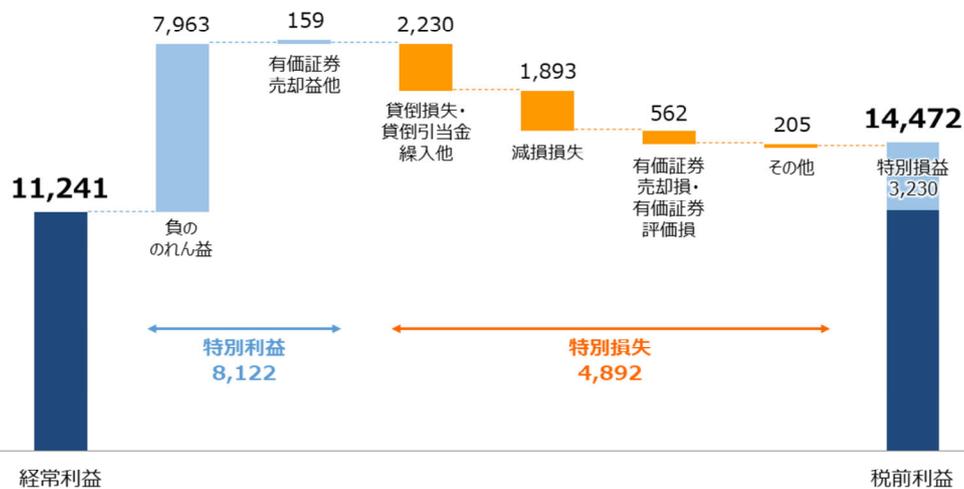
(単位：百万円)

	2020/3期 実績		2021/3期 前回予想 (* )		2021/3期 実績		前年比	予想比
売上高	443,615		415,000		<b>422,365</b>		▲4.8%	1.8%
売上総利益	47,016	10.6%	—		<b>47,936</b>	11.3%	2.0%	—
販売費及び一般管理費	37,001	8.3%	—		<b>36,469</b>	8.6%	▲1.4%	—
営業利益	10,014	2.3%	9,000	2.2%	<b>11,467</b>	2.7%	14.5%	27.4%
経常利益	10,137	2.3%	8,500	2.0%	<b>11,241</b>	2.7%	10.9%	32.2%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5,852	1.3%	10,500	2.5%	<b>11,399</b>	2.7%	94.8%	8.6%
EPS (1株当たり当期純利益)	213.21		382.30		<b>415.07</b>		—	—
ROE	7.6%		12.7%		<b>13.5%</b>		5.9pt	+0.8pt

2021年3月期の業績ハイライトについてご説明申し上げます。  
 売上高は、4,223億6,500万円となりまして、前年比4.8%減、予想比1.8%増で着地いたしました。  
 売上総利益は、479億3,600万円となりまして、前年比2.0%増、  
 売上総利益率につきましては11.3%となりまして、前年比0.7%増となっております。  
 販売費および一般管理費につきましては、364億6,900万円となりまして、前年比1.4%減、  
 営業利益につきましては、114億6,700万円となりまして、前年比14.5%増、  
 予想比では27.4%増となりました。  
 経常利益は、112億4,100万円となりまして、前年比10.9%増、予想比32.2%増となっております。  
 親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、113億9,900万円となりまして、前年比  
 94.8%増、予想比8.6%増となっております。  
 結果、EPS 1株あたり当期純利益につきましては、415円07銭となりました。  
 ROEにつきましては、13.5%となっております。

## 2021年3月期 特別損益の内訳

(単位：百万円)



前期は多額の特別利益と特別損失を計上いたしましたので、その内訳についてご説明申し上げます。

株式会社エクセルをグループ会社化したことによりまして、負ののれん発生益が79億6,300万円発生いたしました。

しかしながらコロナ禍の影響もございまして、大口取引先への貸倒損失ですとか、2月に発表させていただいたアメリカの子会社での詐欺事件等の損失22億3,000万円を織り込みましたことと、

海外子会社の生産設備等の減損損失18億9,300万円、有価証券売却損、有価証券評価損等で5億6,200万円等、

主なものをあわせまして特別損失48億9,200万円を計上しました。

その結果、特別損益は、32億3,000万円の特別利益を計上いたしております。

## 2021年3月期 セグメント別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 実績		2021/3期 実績		前年比
電子部品	売上高	377,587		<b>353,454</b>		▲6.4%
	セグメント利益	7,503	2.0%	<b>8,151</b>	2.3%	8.6%
情報機器	売上高	43,466		<b>48,389</b>		11.3%
	セグメント利益	1,707	3.9%	<b>2,482</b>	5.1%	45.3%
ソフトウェア	売上高	2,778		<b>2,932</b>		5.5%
	セグメント利益	236	8.5%	<b>263</b>	9.0%	11.4%
その他	売上高	19,781		<b>17,589</b>		▲11.1%
	セグメント利益	452	2.3%	<b>474</b>	2.7%	4.9%
合計	売上高	443,615		<b>422,365</b>		▲4.8%
	セグメント利益	10,014	2.3%	<b>11,467</b>	2.7%	14.5%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。



続きまして、セグメント別の業績をご説明申し上げます。

電子部品事業は、売上高3,534億5,400万円となりまして、前年比6.4%減。

電子部品事業の利益につきましては、81億5,100万円となりまして、前年比8.6%増。

情報機器事業につきましては、売上高483億8,900万円、前年比11.3%増。

セグメント利益は、24億8,200万円、前年比45.3%増。

続いて、ソフトウェア事業につきましては、売上高29億3,200万円、前年比5.5%増。

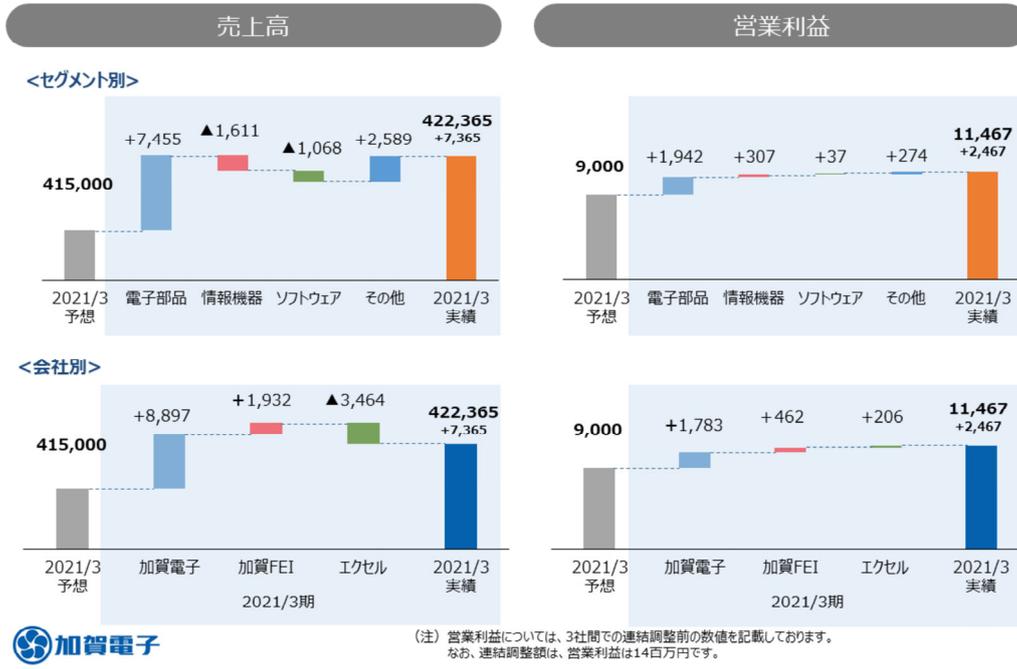
利益は、2億6,300万円、前年比11.4%増。

その他事業につきましては、175億8,900万円の売上高で、11.1%減。

セグメント利益は4億7,400万円となりまして、前年比4.9%増という実績でございました。

## 2021年3月期 前回予想 (21年2月4日公表) からの変化

(単位：百万円)



セグメント別の業績について2月発表にさせていただいた公表値からの変化をこのスライドで表しております。

売上高につきましては、電子部品事業が74億5,500万円上振れし、情報機器事業は16億1,100万円の減少、

ソフトウェア事業も10億6,800万円の減少、その他事業が25億8,900万円の増加となっております。

営業利益につきましては、電子部品事業が19億4,200万円の増加、情報機器事業は3億700万円の増加、

ソフトウェア事業3,700万円の増加、その他事業が2億7,400万円の増加とすべての部門で増加しております。

また会社別では、売上高については、加賀電子が88億9,700万円の増加、加賀FEIが19億3,200万円の増加、

エクセルが34億6,400万円の減少となっております。

営業利益の会社別では、加賀電子が17億8,300万円の増加、加賀FEIが4億6,200万円の増加、エクセルが2億600万円の増加となっております。

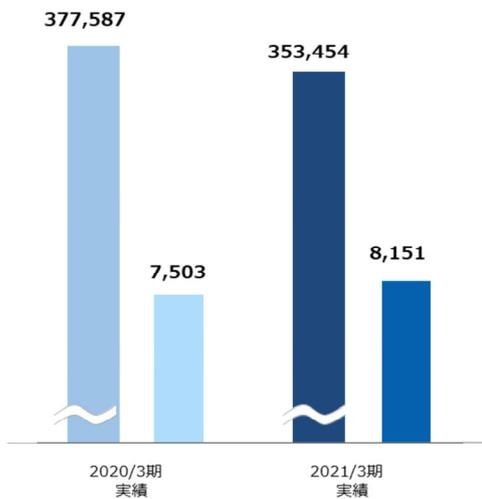
## 2021年3月期：電子部品事業

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比

■ / ■ 売上高  
■ / ■ セグメント利益



- 売上高 ▶ ▲24,133百万円 6.4%減
- セグメント利益 ▶ +647百万円 8.6%増

・部品販売ビジネスは、エクセル連結化による増収効果に加えて、年度後半からは需要回復に対応して堅調。  
・しかしながら、加賀FEIにおけるサイプレス社代理店契約解消などの影響残り、前年を下回る。

・EMSビジネスは、コロナ禍で一部の海外工場がロックダウンの影響を受けた1Qで底打ち。  
・とりわけ、経済活動の再開を背景に年度半ばから車載、産業機器向けを中心に需要が急回復。



8

電子部品事業のセグメント別の主なご説明になります。

売上高、セグメント利益の増加要因につきましては、先ほど申し上げたとおりでございますが、部品販売ビジネスはエクセルを連結化したことによる増収効果に加えて、年度後半からの需要回復に対応して、堅調に推移いたしました。

しかしながら加賀FEIにおけるCypress社代理店契約解消などの影響が残り、前年を下回る結果となっております。

EMSビジネスにつきましては、コロナ禍で一部の海外工場がロックダウンの影響を受けた事で第1四半期で底打ちしております。

とりわけ経済活動の再開を背景に年度半ばから車載産業機器向け中心に需要が急回復いたしました。

## 2021年3月期：情報機器事業

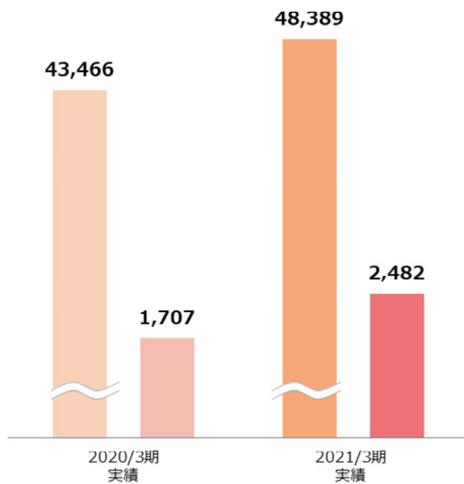
(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年比

売上高  
セグメント利益

● 売上高 ▶ **+4,922**百万円 **11.3%増**  
● セグメント利益 ▶ **+774**百万円 **45.3%増**



・テレワーク、オンライン授業の増加により、パソコン、PC周辺機器およびセキュリティソフトの販売が家電量販店、学校・教育機関向けに伸長。

・新型コロナウイルス対策商材として、検温用サーモグラフィーや抗ウイルス性能を持つ除菌脱臭機の販売が堅調。



続きまして、情報機器事業でございます。

こちらも売上高、セグメント利益につきましてはどちらも増収増益でございましたけれども主要因といたしましては、

テレワーク、オンライン授業の増加によりパソコン、PC周辺機器およびセキュリティソフトの販売が、家電量販店・学校教育機関向けに堅調でございました。

新型コロナウイルス対策商材として、検温用サーモグラフィーや抗ウイルス性能を持つ除菌脱臭機の販売が堅調でございました。

## 2021年3月期 M&Aの影響

(単位：百万円)

### 売上高

加賀電子はコロナ影響あるも増収、加賀FEIは大口商権喪失により大幅減。エクセルは1Qより連結化



### 売上総利益 / 売上総利益率

加賀FEIは減益も、加賀電子は大幅増益、両社ともに利益率改善



### 販管費 / 販管費率

加賀電子、加賀FEIとも経費削減に努め、新規連結影響を吸収



### 営業利益 / 営業利益率

コロナ禍の中、加賀電子は増益、利益率も大幅改善



(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。  
なお、連結調整額は売上総利益は▲19百万円、営業利益は13百万円です。

10

続きましてM&Aの状況についてご説明申し上げます。

加賀電子は、コロナ禍の影響がありましたが、8億8,600万円の売上高では増収でございました。

加賀FEIにつきましては、大口代理店の商権喪失により68億5,100万円の減収でございました。

エクセルにつきましては、新規に465億3,500万円の数字が加わりまして、この加賀FEIの減少分をエクセルで補いましたが補いきれず、

グループ全体では212億4,900万円の減収でございました。

売上総利益につきましては、加賀電子グループが19億7,400万円の増益。

加賀FEIが34億円の減益。

新規にエクセルが23億6,500万円寄与いたしまして、グループ全体では、9億2,000万円の増益となっております。

また売上総利益率につきましては、加賀電子が13.7%から14.5%に増加、加賀FEIは、6.8%か7.8%増加しております。

これに、エクセルの5.1%が入りまして、グループ全体では前年の10.6%から11.3%に売上利益率は増加しております。

続きまして販管費でございます。

加賀電子、加賀FEIとも経費削減につとめ新規連結の影響を吸収いたしました。

加賀電子グループは、10億1,100万円の販管費削減、加賀FEIは、17億5,000万円の削減。

新規にエクセルが、22億3,000万円入っております。

また加賀電子グループにつきましては、前年度に十和田パイオニア(現:加賀EMS十和田))と昨年の秋にグループ入りいたしました旭東電気の

販管費の増加要因がありますので、従来からの加賀電子グループは10億1,100万円の販管費減少よりもっと削減できた結果となっております。

営業利益でございます。

コロナ禍の中、加賀電子は、増益。利益率は、大幅に改善しております。

加賀電子が31億5,500万円の増益、加賀FEIが17億2,300万円の減少、エクセルが600万円の増加要因ということでございまして、

グループ全体で14億5,200万円の増益要因となっております。

利益率につきましては、加賀電子が前年の3.3%から4.5%に増加しております。

加賀FEIは、前年が1%でしたので残念ながら0.3%に減少しております。

グループ全体では、前年の2.3%から2.7%に増加しております。

## 2021年3月期 会社別業績

(単位：百万円)

		2020/3期 実績		2021/3期 実績		前年比
加賀電子	売上高	243,031		243,897		+0.4%
	売上総利益	33,298	13.7%	35,273	14.5%	+5.9%
	営業利益	7,927	3.3%	11,083	4.5%	+39.8%
加賀FEI	売上高	200,584		131,932		▲34.2%
	売上総利益	13,708	6.8%	10,307	7.8%	▲24.8%
	営業利益	2,086	1.0%	362	0.3%	▲82.6%
エクセル	売上高	-	-	46,535		-
	売上総利益	-	-	2,365	5.1%	-
	営業利益	-	-	6	0.0%	-
合計	売上高	443,615		422,365		▲4.8%
	売上総利益	47,016	10.6%	47,936	11.3%	+2.0%
	営業利益	10,014	2.3%	11,467	2.7%	+14.5%

(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

こちらが今申し上げた会社別の業績を数字の一覧表にまとめたものでございます。

こちらご覧いただければと思います。

10ページから15ページまでが、四半期別の業績の説明資料になりますので、こちらご覧いただければと思います。

参考

## 2021年3月期 業績ハイライト (直近3ヶ月)

(単位：百万円)

	2020/3期 4Q実績		2021/3期 3Q実績		2021/3期 4Q実績		前年同期比	直前期比
売上高	104,813		105,406		<b>128,099</b>		22.2%	21.5%
売上総利益	11,770	11.2%	12,005	11.4%	<b>14,289</b>	11.2%	21.4%	19.0%
販売費及び一般管理費	9,488	9.1%	8,923	8.5%	<b>10,339</b>	8.1%	9.0%	15.9%
営業利益	2,282	2.2%	3,082	2.9%	<b>3,950</b>	3.1%	73.0%	28.2%
経常利益	2,161	2.1%	2,892	2.7%	<b>4,010</b>	3.1%	85.5%	38.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	927	0.9%	1,956	1.9%	<b>▲1,329</b>	▲1.0%	—	—
EPS (1株当たり当期純利益)	33.78		71.23		<b>▲48.38</b>		—	—

参考

## 2021年3月期 セグメント別業績（直近3ヶ月）

(単位：百万円)

		2020/3期 4Q実績		2021/3期 3Q実績		2021/3期 4Q実績		前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	84,060		89,816		<b>106,750</b>		27.0%	18.9%
	セグメント利益	1,084	1.3%	2,335	2.6%	<b>2,732</b>	2.6%	151.9%	17.0%
情報機器	売上高	13,677		10,745		<b>14,451</b>		5.7%	34.5%
	セグメント利益	853	6.2%	592	5.5%	<b>728</b>	5.0%	▲14.6%	23.1%
ソフトウェア	売上高	990		730		<b>927</b>		▲6.3%	27.1%
	セグメント利益	226	22.9%	20	2.8%	<b>156</b>	16.9%	▲31.0%	662.0%
その他	売上高	6,085		4,114		<b>5,969</b>		▲1.9%	45.1%
	セグメント利益	87	1.4%	112	2.7%	<b>325</b>	5.5%	270.3%	188.1%
合計	売上高	104,813		105,406		<b>128,099</b>		22.2%	21.5%
	セグメント利益	2,282	2.2%	3,082	2.9%	<b>3,950</b>	3.1%	73.0%	28.2%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

(単位: 百万円)

売上高

加賀電子は大幅増収。加賀FEIは大口商権喪失の影響が残る



売上総利益 / 売上総利益率

加賀電子は大幅増益、加賀FEIも増益に転じ、両社とも利益率改善



販管費 / 販管費率

加賀電子は費用増も経費抑制に努め、販管費率は改善



営業利益 / 営業利益率

3社とも増益確保。加賀電子、加賀FEIは利益率も大きく改善



(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。  
 なお、連結調整額は売上総利益は3百万円、営業利益は10百万円です。

(単位：百万円)

		2020/3期 4Q実績	2021/3期 3Q実績	2021/3期 4Q実績	前年同期比	直前期比
加賀電子	売上高	62,912	60,938	<b>72,423</b>	+15.1%	+18.8%
	売上総利益	8,736 13.9%	8,931 14.7%	<b>10,488</b> 14.5%	+20.1%	+17.4%
	営業利益	1,942 3.1%	3,158 5.2%	<b>3,304</b> 4.6%	+70.1%	+4.6%
加賀FEI	売上高	41,901	32,700	<b>39,511</b>	▲5.7%	+20.8%
	売上総利益	3,032 7.2%	2,458 7.5%	<b>3,064</b> 7.8%	+1.0%	+24.6%
	営業利益	339 0.8%	▲59 ▲0.2%	<b>506</b> 1.3%	+49.3%	-
イクセル	売上高	-	11,767	<b>16,163</b>	-	+37.4%
	売上総利益	-	623 5.3%	<b>733</b> 4.5%	-	+17.7%
	営業利益	-	▲14 ▲0.1%	<b>128</b> 0.8%	-	-
合計	売上高	104,813	105,406	<b>128,099</b>	+22.2%	+21.5%
	売上総利益	11,770 11.2%	12,005 11.4%	<b>14,289</b> 11.2%	+21.4%	+19.0%
	営業利益	2,282 2.2%	3,082 2.9%	<b>3,950</b> 3.1%	+73.0%	+28.2%

(注) 売上総利益および営業利益については、3社間での連結調整前の数値を記載しております。

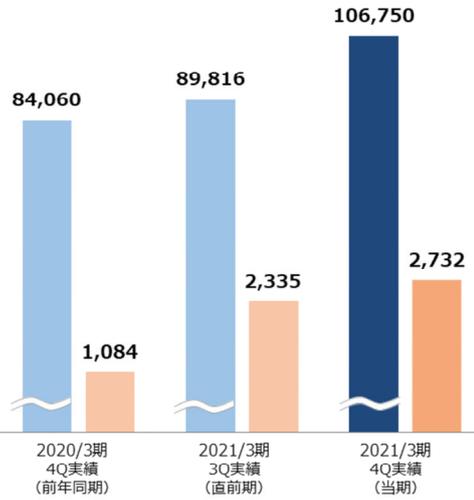
(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

前年同期比

■ / ■ 売上高  
■ / ■ セグメント利益

● 売上高 ▶ +22,689百万円 27.0%増  
● セグメント利益 ▶ +1,648百万円 151.9%増



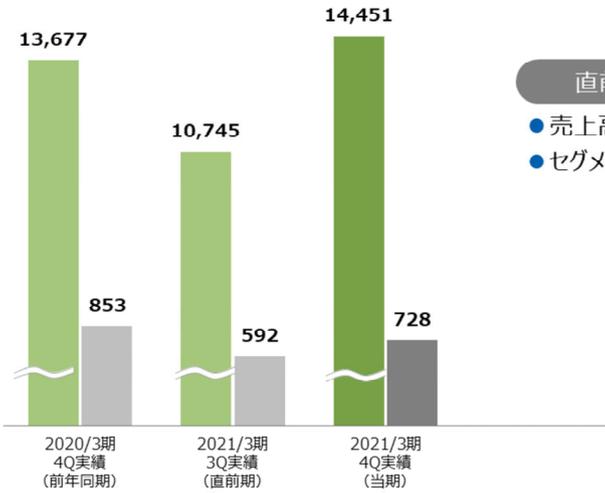
直前期比

● 売上高 ▶ +16,933百万円 18.9%増  
● セグメント利益 ▶ +397百万円 17.0%増

(単位：百万円)

売上高・セグメント利益

■ / ■ 売上高  
■ / ■ セグメント利益



前年同期比

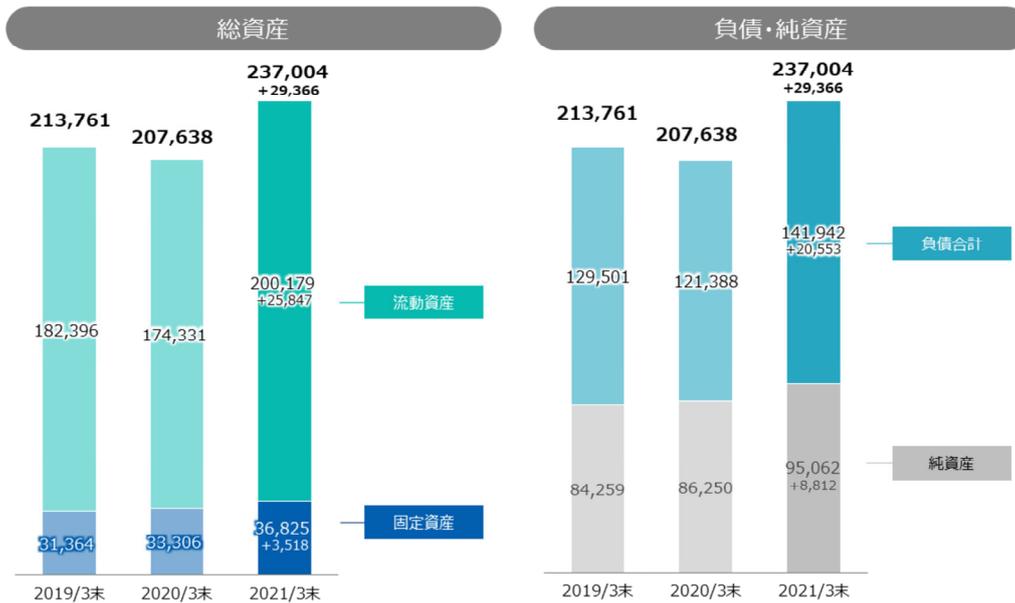
● 売上高 ▶ **+774**百万円 **5.7%増**  
● セグメント利益 ▶ **▲124**百万円 **14.6%減**

直前期比

● 売上高 ▶ **+3,705**百万円 **34.5%増**  
● セグメント利益 ▶ **+136**百万円 **23.1%増**

## 財政状態計算書主要項目

(単位：百万円)



18ページにいていただきまして、財政状態につきご説明申し上げます。

まず資産の部でございます。

総資産は2,370億400万円となりまして、前年3月期に比べますと293億6,600万円増加しております。

このうち流動資産は2,001億7,900万円となりまして、258億4,700万円の増加となっております。

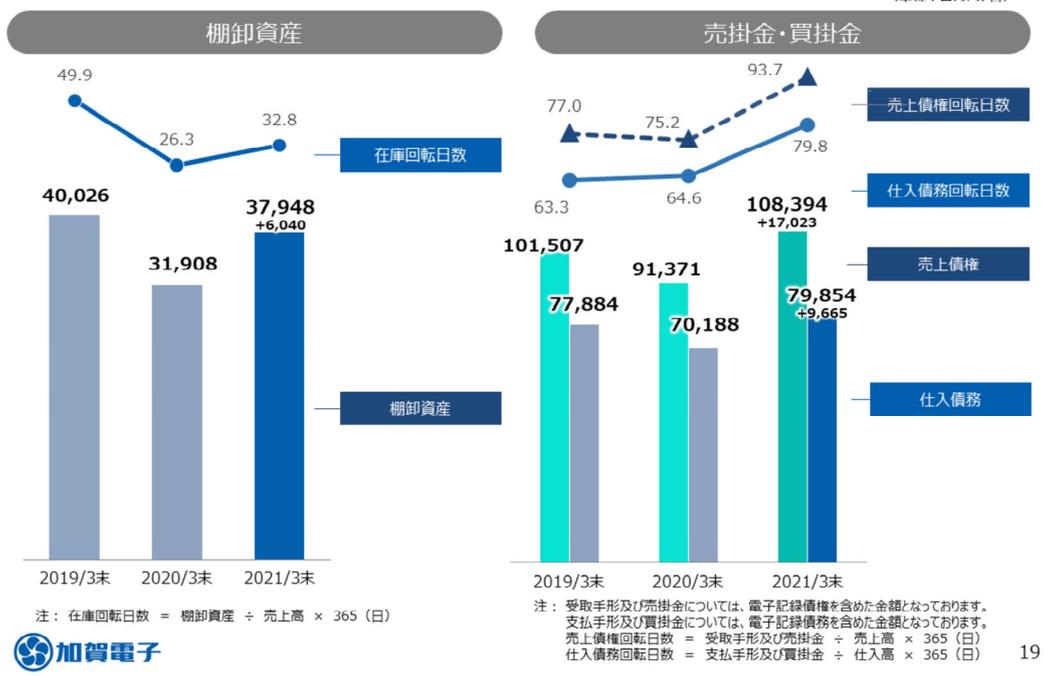
固定資産が368億2,500万円となりまして、35億1,800万円の増加となっております。

負債純資産につきましては、まず負債の部でございますが、負債合計は、1,419億4,200万円となりまして、205億5,300万円の増加しております。

純資産は950億6,200万円となりまして、88億1,200万円増加しております。

## 財政状態計算書主要項目

(単位：百万円、日)



続きまして、棚卸資産でございますが、379億4,800万円となりまして、60億4,000万円増加しております。

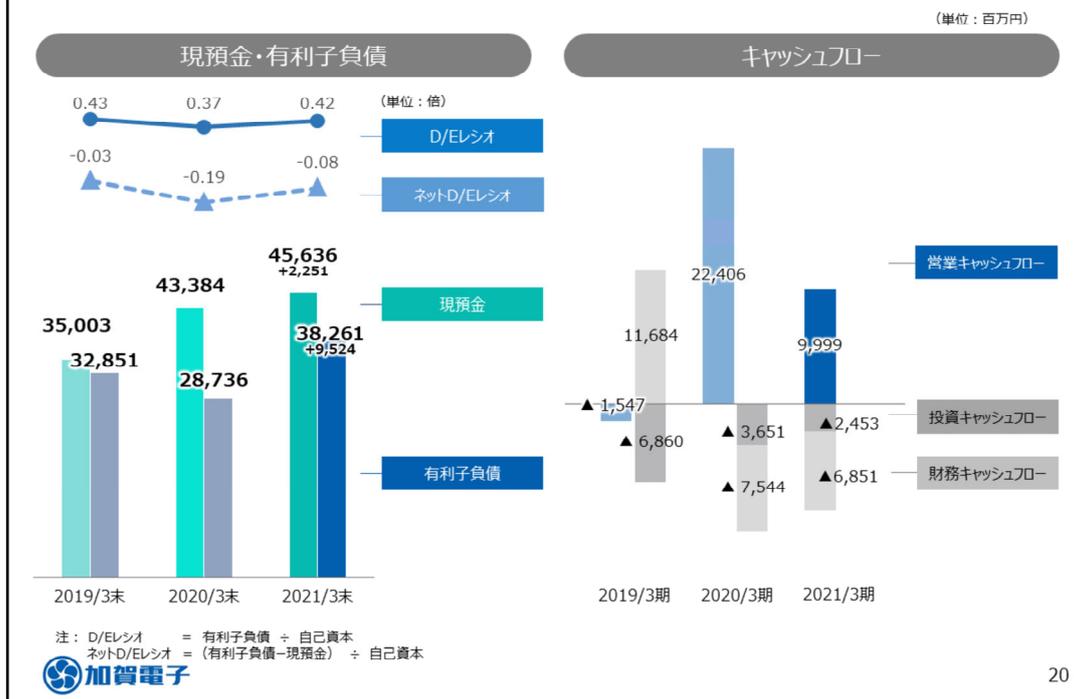
在庫回転日数は32.8日となりました。

売掛金、買掛金につきましては、まず売上債権は1,083億9,400万円となりまして、170億2,300万円増加しております。

仕入債務につきましては、798億5,400万円となりまして、96億6,500万円の増加でございます。

売上債権回転日数につきましては93.7日、仕入債務回転日数については79.8日となっております。

## 現預金・有利子負債/キャッシュフロー

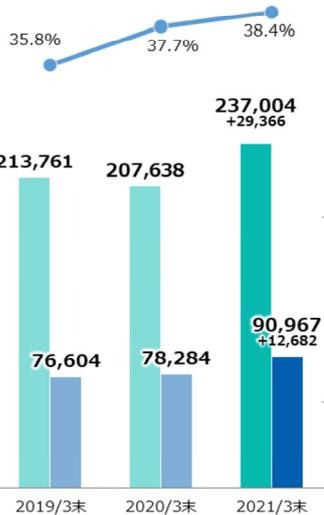


続きまして、現預金・有利子負債/キャッシュフローについてご説明申し上げます。  
 現預金につきましては、456億3,600万円となりまして、22億5,100万円の増加でございます。  
 有利子負債につきましては、382億6,100万円となりまして、95億2,400万円の増加となっております。  
 キャッシュフローにつきましては、営業キャッシュフローが99億9,900万円の獲得、  
 投資キャッシュフローにつきましては、24億5,300万円の使用、  
 財務キャッシュフローにつきましては、68億5,100万円の使用でございました。

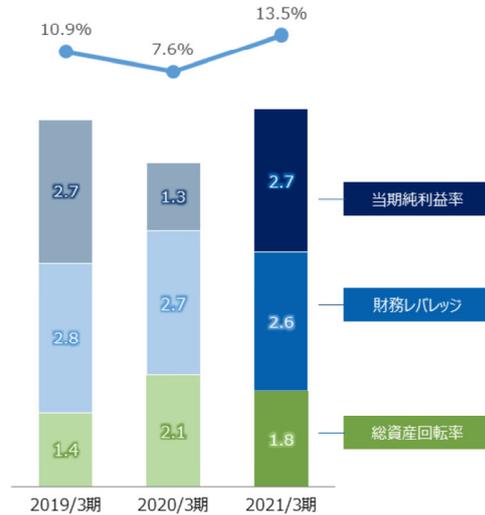
## 経営指標：安定性・効率性

(単位：百万円)

### 自己資本比率



### ROE (自己資本利益率)



続きまして、自己資本比率につきましては、総資産が2,370億400万円となりまして、293億6,600万円の増加、  
 自己資本は909億6,700万円となりまして126億8,200万円の増加となっております。  
 結果自己資本比率は38.4%となりました。  
 ROEは13.5%と大幅に増加しております。  
 また当期純利益率につきましては、2.7%と前年に比較しますと倍増しております。  
 財務レバレッジは、ほぼ横ばいの2.6 総資産回転率につきましては1.8に減少しております。

## 2022年3月期 通期業績予想

(単位：百万円)

	2021/3期 実績		2022/3期 予想		前年比
売上高	422,365		<b>470,000</b>		11.3%
営業利益	11,467	2.7%	<b>13,000</b>	2.8%	13.4%
経常利益	11,241	2.7%	<b>12,000</b>	2.6%	6.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	11,399	2.7%	<b>8,000</b>	1.7%	▲29.8%
EPS	415.07		<b>291.20</b>		-
ROE	13.5%		<b>8.5%</b>		▲5.0pt

(注) 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用するため、業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。



最後に通期の2022年3月期の通期業績予想についてご説明申し上げます。  
 売上高につきましては、4,700億円、前年比11.3%増。  
 営業利益につきましては、130億円、前年比13.4%増。  
 経常利益につきましては、120億円、前年比6.7%増。  
 親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、80億円、前年比29.8減。  
 結果EPSにつきましては、291円20銭、ROEは8.5%となる予定となっております。

## 2022年3月期 セグメント別業績予想

(単位：百万円)

		2021/3期 実績	2022/3期 予想		前年比
電子部品	売上高	353,454	<b>404,000</b>		14.3%
	セグメント利益	8,151 2.3%	<b>9,900 2.5%</b>		21.5%
情報機器	売上高	48,389	<b>45,000</b>		▲7.0%
	セグメント利益	2,482 5.1%	<b>2,300 5.1%</b>		▲7.3%
ソフトウェア	売上高	2,932	<b>3,000</b>		2.3%
	セグメント利益	263 9.0%	<b>300 10.0%</b>		13.9%
その他	売上高	17,589	<b>18,000</b>		2.3%
	セグメント利益	474 2.7%	<b>500 2.8%</b>		5.4%
合計	売上高	422,365	<b>470,000</b>		11.3%
	セグメント利益	11,467 2.7%	<b>13,000 2.8%</b>		13.4%

注：1. セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。  
2. 2022年3月期の期首より「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号）等を適用するため、業績予想は当該会計基準等を適用した後の金額となっております。



23

この業績予想セグメント別に分解いたしますと、電子部品事業につきましては、売上高4,040億円、セグメント利益99億円となっております。

前年比でいきますと売上高が14.3%増、利益につきましては、21.5%増となります。

情報機器事業につきましては、売上高が450億円、7%減、セグメント利益は売上高23億円、7.3%減となっております。

ソフトウェア事業につきましては、売上高30億円、2.3%増、セグメント利益が売上高3億円、13.9%増となります。

その他事業につきましては、売上高180億円、2.3%増、セグメント利益は5億円、5.4%増という業績予想を今回発表させていただきます。

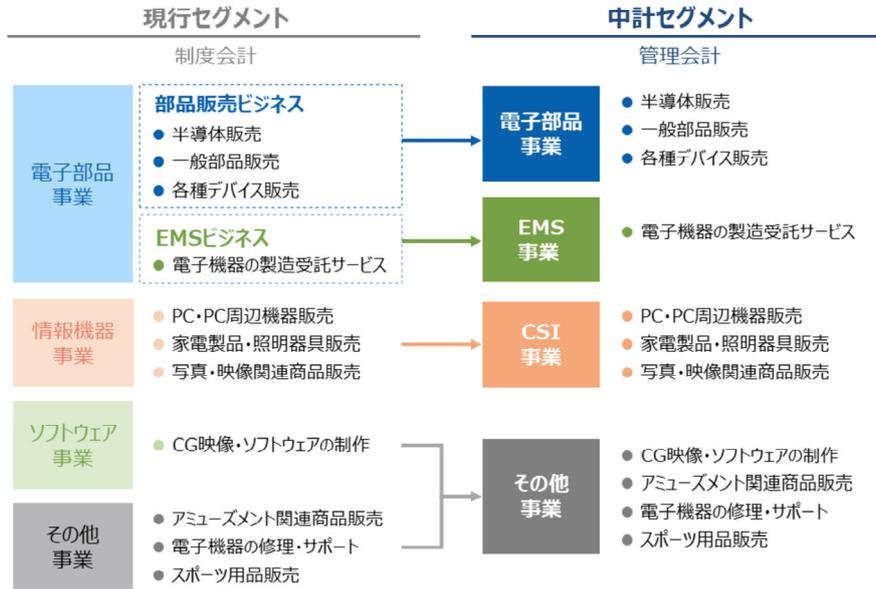
中期経営計画2021の最終年度といたしまして、当初掲げました、営業利益130億円をなんとか達成すべく、

グループ全体で力を合わせて活動して参りたいと思っておりますので引き続きご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

22ページ以降、参考資料で色々な数字を掲載しておりますので、こちらもご覧いただければと思います。

ご清聴ありがとうございました。

制度会計としての現行セグメントでの継続開示と併せ、新中計に沿ったセグメントによる任意開示を行う



加賀電子及びグループ各社のセグメント領域

	電子部品事業	EMS事業	CSI事業	その他事業
<b>加賀電子株式会社</b>				
電子事業部	●	●	●	●
EMS事業部		●		
通信事業部	●	●	●	●
特機事業部	●	●	●	
営業推進事業部	●			
<b>主な国内グループ会社</b>				
加賀テック株式会社	●	●	●	●
加賀デバイス株式会社	●	●	●	●
加賀ソルネット株式会社			●	
イー・ディー・デバイス株式会社	●			
加賀マイクロソリューション株式会社		●	●	●
株式会社デジタルメディアラボ				●
加賀スポーツ株式会社				●
加賀アミューズメント株式会社				●
加賀テクノサービス株式会社			●	
加賀FEI株式会社 (旧: 富士通エレクトロニクス株式会社)	●			
加賀EMS+和田株式会社		●		
株式会社エクセル	●			
旭東電気株式会社		●		
<b>主な海外グループ会社</b>				
加賀沢山電子 (蘇州) 有限公司		●		
加賀電子 (上海) 有限公司	●	●		
港加賀電子 (深圳) 有限公司		●		
KAGA (H.K.) ELECTRONICS LIMITED		●		
KAGA DEVICES (H.K.) LIMITED	●			
KAGA (TAIWAN) ELECTRONICS CO., LTD	●	●		
KAGA ELECTRONICS (THAILAND) COMPANY LIMITED	●	●		
KAGA COMPONENTS (MALAYSIA) SDN.BHD.		●		
KAGA ELECTRONICS INDONESIA, PT	●	●		
KAGA ELECTRONICS (VIETNAM) CO., LTD.		●		
KAGA (SINGAPORE) ELECTRONICS PTE LTD	●	●		●
KAGA ELECTRONICS (USA) INC.	●	●		
TAXAN MEXICO S.A. de C.V.		●		
KD TEC s.r.o.	●	●		



		* 2021年2月4日公表				(単位：百万円)			
		2020/3期 実績		2021/3期 前回予想(*)		2021/3期 実績		前年比	予想比
電子部品	売上高	292,905		267,000		<b>262,318</b>		▲10.4%	▲1.8%
	セグメント利益	3,553	1.2%	2,500	0.9%	<b>2,961</b>	1.1%	▲16.7%	+18.5%
EMS	売上高	93,340		87,000		<b>99,599</b>		+6.7%	+14.5%
	セグメント利益	4,015	4.3%	4,000	4.6%	<b>5,539</b>	5.6%	+38.0%	+38.5%
CSI	売上高	43,466		50,000		<b>48,389</b>		+11.3%	▲3.2%
	セグメント利益	1,707	3.9%	2,300	4.6%	<b>2,482</b>	5.1%	+45.3%	+7.9%
その他	売上高	13,902		11,000		<b>12,057</b>		▲13.3%	+9.6%
	セグメント利益	623	4.5%	200	1.8%	<b>387</b>	3.2%	▲37.8%	+93.9%
合計	売上高	443,615		415,000		<b>422,365</b>		▲4.8%	+1.8%
	セグメント利益	10,014	2.3%	9,000	2.2%	<b>11,467</b>	2.7%	+14.5%	+27.4%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、  
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

（単位：百万円）

		2020/3期 4Q実績		2021/3期 3Q実績		2021/3期 4Q実績		前年同期比	直前期比
電子部品	売上高	64,221		64,625		<b>80,405</b>		+25.2%	+24.4%
	セグメント利益	614	1.0%	805	1.2%	<b>1,304</b>	1.6%	+112.2%	+62.1%
EMS	売上高	22,618		27,275		<b>29,383</b>		+29.9%	+7.7%
	セグメント利益	559	2.5%	1,625	6.0%	<b>1,649</b>	5.6%	+194.6%	+1.5%
CSI	売上高	13,677		10,745		<b>14,451</b>		+5.7%	+34.5%
	セグメント利益	853	6.2%	592	5.5%	<b>728</b>	5.0%	▲14.6%	+23.1%
その他	売上高	4,296		2,760		<b>3,858</b>		▲10.2%	+39.8%
	セグメント利益	225	5.2%	38	1.4%	<b>261</b>	6.8%	+16.0%	+574.3%
合計	売上高	104,813		105,406		<b>128,099</b>		+22.2%	+21.5%
	セグメント利益	2,282	2.2%	3,082	2.9%	<b>3,950</b>	3.1%	+73.0%	+28.2%

注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、  
合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

## 経営トピックス

代表取締役社長  
門 良一

加賀電子 社長の門でございます。

平素は当社のIR活動にご支援、ご協力をいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは、これより「経営トピックス」と題しまして、この2021年3月期における当社の経営上重要な事項につきまして、ご報告させていただきたいと思えます。

## 本日本日お伝えしたいメッセージ

### 2021年3月期の 総括

- 2期連続で営業最高益を更新。
- “稼ぐ力”の進化で、100億円超の営業利益を安定的に創出。

### 中期経営計画 の進捗

- 概ねインラインの進捗。売上高は乖離残るも、営業利益は目標達成を見込む。
- 2022年3月期中には「次期中計」を公表予定。最高益の記録更新を続けたい。

### 買収会社 のPMI

- 営業拠点の統廃合など、概ねインラインの進捗。
- 2021年3月期は営業黒字確保、2022年3月期から利益貢献始まる。

### コロナ対策

- 国内外とも従業員の安心・安全を最優先に、グループ経営にあたる。

### ガバナンス強化 とSDGs

- 「社外取締役1/3以上」に増員、「指名・報酬委員会」を設置。
- 社長直轄で「SDGs委員会」を設置、グループ横断的にESG課題に取り組む。



まず、本日の要約をこのスライドにまとめております。5つほど、テーマがあります。

一つ目は、「2021年3月期業績の総括」であります。営業利益は2期連続で最高益を更新しました。わたしは、当社の“稼ぐ力”が進化してきたと評価しています。いまや100億円超の営業利益は、安定的に創出できるようになったのではないかな、と思います。

二つ目は、「中期経営計画の進捗」であります。利益目標に関してはインラインの進捗であります。2022年3月期は最終年度として、現中計の仕上げを行うとともに、次期中計の仕込みも行います。ですので、今期中には、次期中計を公表したいと思います。3年連続、4年連続、5年連続、と最高益の記録更新を続けたいと思っています。

三つ目は、「買収会社のPMI」についてであります。加賀FEI、エクセルともに概ねインラインの進捗であります。2021年3月期は、両社ともに、なんとか営業黒字は確保しました。2022年3月期からは利益貢献が始まります。

四つ目は、「コロナ対策」です。従業員の安心・安全を最優先に、経営にあたっております。

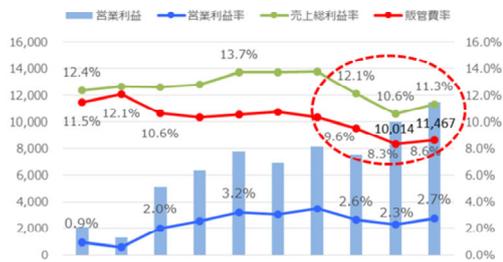
最後は、「ガバナンス強化とSDGs」についてであります。「社外取は1/3以上に」、そして「指名・報酬委員会」を設置します。また、「SDGs委員会」を立ち上げて、サステナビリティ経営を進めます。

これらのテーマにつきまして、これから詳しくご説明させていただきます。

## 2021年3月期総括：“稼ぐ力（営業利益）”の進化

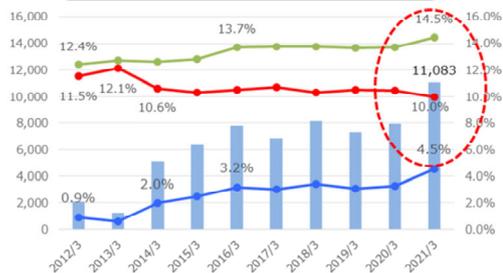
(単位：百万円)

### 加賀電子グループ



- ・ 20年3月期に続いて、**2期連続で営業最高益**。
- ・ FEI買収以降、低下傾向にあった**売上総利益率は20年3月期を底に反転**。
- ・ **100億円超の営業利益を安定して創出**できる収益体質に進化。

### 加賀電子本体



- ・ グループの中核となる加賀電子本体としては初の、**営業利益100億円超え。営業利益率4.5%**。
- ・ 利益の源泉となる**売上総利益率は、12%台→13%台→14%台へ**と、持続的に上昇。
- ・ **販管費率も10%を切る**ところまで抑制進む。



30

さて、本題に入らせていただきます。まず、2021年3月期決算の総括として、“稼ぐ力”の進化、についてご説明させていただきます。

左側の2つのグラフですが、上は加賀電子グループの連結ベースで、10年分の営業利益を棒グラフに、そして、折れ線グラフは、同期間の売上総利益率、販管費率、営業利益率、を示しております。加賀FEIを連結化したのが、2019年3月期でした。右から3本目になります。加賀電子よりもマージンが

低い会社をグループ会社化した影響で、売上総利益率は12.1%、10.6%と2年連続で低下しましたが、2020年3月期を底にして反転することができました。

結果、2020年3月期、2021年3月期と100億円超の営業利益を安定して稼げる収益体質に進化してきたように思います。

このことをもう少し掘り下げてみるために、加賀電子本体の10年間を同じようにグラフにしました。下のグラフになります。

売上総利益率は、このように10年前の12%台から13%台、そして2021年3月期には14.5%と、徐々にですが右肩上がりに上昇しております。

一方、販管費率は、10年前は11%台から12%台だったものをわたしの代になってからは、ズーっと10%台に抑えてきました。

そして、この2021年3月期には、ようやく10%を切るところまでになりました。

細かいことに拘るようで恐縮ですが、グラフには10%と表示されておりますが、実際は「9.99%」なのです。

結果、加賀電子本体の営業利益率は4.5%になりました。

このように、加賀FEI、エクセルなどM&Aを繰り返してきましたが、加賀電子自体の“利益重視の経営”は決して手綱を緩めておりません。

これからも“1兆円企業”に向けて、M&Aを続けていくこととなりますが、この加賀電子本体の収益基盤が変わらない限り、

当社グループの利益成長は持続可能だと考えております。

## 「中期経営計画2021」最終年度目標：策定時からの変化



次に、新年度の2022年3月期について述べさせていただきます。

2022年3月期は、3ヵ年計画の「中期経営計画2021」の最終年度であります。

その経営目標は、「売上高5,000億円、営業利益130億円」であります。

それに対して、5月13日に公表しました業績予想は、それぞれ4,700億円、130億円、でした。

営業利益は計画達成の見通しであります。売上高はまだ目標とは乖離がある状況です。

計画を策定したのは、今から3年前の2018年の夏から秋頃であります。

この間、加賀電子本体としては大きな変化はなかったのですが、加賀FEIでは大口代理店契約の解消があり、1,000億円近い売上を失いました。

エクセルの買収によって、ある程度は埋まったところもありますが、まだ300億円足りていません。

ただし、現時点で、この中期経営計画の経営目標は取り下げるつもりはなく、300億円はわたし自身のチャレンジ目標として、この1年、取り組んでまいります。

営業利益の方は、3年前と中身は変わりましたが、加賀電子本体の稼ぐ力が進化したこともあり、達成は可能だと考えております。

## PMIの進捗状況：加賀FEI（旧富士通エレクトロニクス）

EMSの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>車載機器メーカー、電機メーカーなど8社から11件の開発・試作・量産を受注 124社/新規訪問 → 74社/商談継続中</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;「EMS/E2MSビジネス部」を設置、コロナ禍でも獲得件数は前年を上回る 量産案件は、加賀電子グループ内EMS工場との連携を進める</p>	
クロスセルの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、加賀電子が持つ有力商材を大手優良顧客へ売り込み拡大中</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;車載ソリューション、ネットワークソリューション、システム機器、インフラ機器、 家電など様々な分野で大型商談を展開中。</p>	
新規商材の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体、電子部品、ユニットモジュールなど幅広い分野で商材・サービスを拡大</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;新規取扱い商材90社（累計）、22年3月期売上は約200億円を見込む （前期売上：126億円）</p>	
営業拠点の 統廃合	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>KFEI大阪オフィスを加賀電子関西ビルへ移転 [20年12月]</li> <li>*既に、名古屋、広島、新潟は統合完了</li> </ul>
	海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>加賀電子米国版社をKFEI米国版社に統合 [21年1月]</li> <li>加賀電子韓国版社とKFEI韓国版社も検討中 [21年上半年期目途]</li> </ul>

※略称：加賀FEI → KFEI



32

19年1月に買収した加賀FEIに関して、PMIの進捗状況をご説明させていただきます。

まず「EMSの取り組み」ですが、前回もご説明しましたが、19年4月から加賀FEI内にEMS専任の営業部隊「EMS/E2MSビジネス部」を立ち上げ、加賀電子のEMS事業部と連携して、同社の有力顧客への営業活動を行っております。2021年3月期は124社へアプローチし、開発や試作、量産など8社から11件のご注文をいただきました。今期から売上計上が始まるものと期待しております。昨年は90社へアプローチし、4社から注文をいただきましたので、この1年でEMSの営業が板についてきたように思います。次に重要なポイントは、「新規商材の取り組み」です。サイプレスなど大口の商権を失ったことは既にご説明した通りですが、空いた穴を埋めるには、新しいビジネスが必要です。加賀FEIでは5年ほど前から、新規商材の開拓を熱心に行っておりまして、これまで累計で90社と新たな取引を始めております。これら新商材による売上高は、2021年3月期は160億円でした。今年度は、約200億円を見込んでいます。国内外において、両社の持つ営業拠点や組織の統廃合も、このように鋭意進めてきました。国内は概ね完了、海外は韓国の統合が残っております。

## PMIの進捗状況：エクセル

新規事業の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>カルテック社製光触媒除菌脱臭機*の拡販</li> <li>中国アルファバス社製EVバスの拡販</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;加賀電子+エクセルが有するネットワークを活用し、本格展開中 ※ EVバス販売状況：21年3月期/2台導入、22年3月期/2台確注</p>				
クロスセルの 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>加賀電子が持つ商材を大手顧客等へ売り込み強化</li> </ul> <p>&lt;注目&gt;「グループシナジー推進室」を新設し、加賀電子との連携強化 更に、「特販営業部」を新設し、電子部品以外の商材の取り扱い拡充中</p>				
営業拠点の 統廃合	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="494 642 582 784">国内</td> <td data-bbox="590 642 1284 784"> <ul style="list-style-type: none"> <li>EXLがADSを吸収合併 [20年10月]</li> <li>EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年3月]</li> <li>EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年4月]</li> <li>他の国内拠点についても見直し検討中</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="494 795 582 900">海外</td> <td data-bbox="590 795 1284 900"> <ul style="list-style-type: none"> <li>EXLシンガポールを清算、加賀シンガポールへ事業移管 [20年12月]</li> <li>ADS香港の事業をEXL香港へ移管 [20年12月]</li> <li>他の海外拠点についても見直し検討中</li> </ul> </td> </tr> </table>	国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>EXLがADSを吸収合併 [20年10月]</li> <li>EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年3月]</li> <li>EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年4月]</li> <li>他の国内拠点についても見直し検討中</li> </ul>	海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>EXLシンガポールを清算、加賀シンガポールへ事業移管 [20年12月]</li> <li>ADS香港の事業をEXL香港へ移管 [20年12月]</li> <li>他の海外拠点についても見直し検討中</li> </ul>
国内	<ul style="list-style-type: none"> <li>EXLがADSを吸収合併 [20年10月]</li> <li>EXL本社を加賀電子本社（秋葉原）に移転 [21年3月]</li> <li>EXL名古屋支店を加賀電子名古屋営業所に移転 [21年4月]</li> <li>他の国内拠点についても見直し検討中</li> </ul>				
海外	<ul style="list-style-type: none"> <li>EXLシンガポールを清算、加賀シンガポールへ事業移管 [20年12月]</li> <li>ADS香港の事業をEXL香港へ移管 [20年12月]</li> <li>他の海外拠点についても見直し検討中</li> </ul>				

※略称：エクセル→EXL Advanced Display Solutions（子会社）→ADS



次に、昨年4月に買収しました、エクセルに関してPMIの進捗状況をご説明させていただきます。前回もご説明しましたが、「新規事業」と「拠点の統廃合」に関して、ご説明いたします。新規事業の一つ目ですが、カルテック社の光触媒方式の除菌脱臭機の拡販に取り組んでおります。これにはエクセルだけでなく、加賀電子グループが持つ販売チャンネルもフル回転して拡販にあっております。

個人用の首掛け式から、16畳用の壁掛け式、60畳用の据置き式と、製品ラインアップも拡がり、コロナ対策としての 企業ニーズにお応えしております。

次に、EV（電動）バスについてご説明いたします。

エクセルは、中国のEVバスメーカー、アルファバス社の販売代理店として、19年に「アルファバス・ジャパン」を設立。

日本において、環境配慮型のEVバス拡販に取り組んでおります。

アルファバス社は、1999年に設立され、車両製造はスウェーデンのバスメーカーと、バッテリーは日本の電池メーカーと提携して、12m級の大型EVバスを生産しています。EVバス先進国の中国では、トップランナーとして、上海、成都、無錫等で採用が進むほか、欧州でもスペインやイタリアで大都市を走る路線バスに採用されているそうです。日本では、2021年3月期に地方自治体等から2件受注し、納入しました。

また、2022年3月期も、現時点で2台確注をいただいております。

EVバスは、言うまでもなく、クリーンエネルギーで排出ガスゼロですので、SDGsにも沿った社会貢献型のビジネスだと思います。

営業拠点の統廃合についてですが、子会社の清算、国内外事業所の当社拠点との統合、そして本日も加賀電子の本社ビルに移転するなど、構造改革を粛々と進めているところです。

## 新型コロナウイルス感染拡大への対応状況

営業拠点 (国内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府および地方自治体の指導に従い、「テレワーク/時差通勤」等の安全対策を徹底して営業継続。緊急事態宣言下では出社率2割目標に人流を抑制。</li> </ul>			
		上期	下期	感染者数
	オフィス 出社率	加賀電子 39.1%	46.5%	2名
	グループ会社	46.2%	52.7%	14名
生産拠点 (海外)	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内は、政府および地方自治体の指導に従い、安全対策を徹底して操業継続。海外は、上期前半はロックダウンにより一部拠点で操業休止。以降は操業継続。</li> </ul>			
	新型コロナウイルス感染拡大に伴う操業休止の状況			
		上期	下期	感染者数
	タイ・インドネシア・トルコ	休止なし		(地域別)
	中国・湖北	2/1~3/15		(中国)
	中国・蘇州	2/1~2/9		0名
	中国・深圳	2/1~2/13		(アジア)
	マレーシア	3/18~4/20		0名
	ベトナム	4/1~4/15		(欧州)
	インド	3/25~5/31		30名
	チェコ	4/7~4/9		(米州)
	メキシコ	4/1~5/30		25名

 ...操業休止期間 34

次に、「新型コロナウイルス」に関して、前回11月の説明会でもご報告しましたが、その後の状況についてアップデートさせていただきます。

先ず営業拠点ですが、国内外とも政府や行政機関の指導に従って、テレワークや時差通勤を基本に、安全第一で営業活動を継続しています。

国内のオフィス出社率を表にまとめておりますが、上期は、加賀電子本体では39%、グループ会社では46%でした。

下期は、それぞれ46%、52%でした。

これまで、緊急事態宣言発令時には出社率は30%以下に抑え、解除されれば40~50%を目安として運用してきましたが、

直近3回目の宣言発令に対しては出社率20%を目標に人流抑制に努めております。

国内における感染者は、加賀電子本社で2名、グループ会社で14名発生しました。

幸いなことに、いずれも重症化には至らず、全員元気に職場に戻っております。

一方、生産拠点では、国内およびタイ、インドネシアでは一度も休止することなく、生産活動を継続しておりますが、

ここに挙げた、中国、マレーシア、ベトナム、等では各国政府が発出したロックダウンに従って、上期は一時操業を休止しました。

海外における感染者は、欧州地区では30名、米州地区では25名発生しました。

いずれも昨年後半からの変異株による感染再拡大によるものであります。

一方、中国やアジアでは感染者は発生しておりません。

## 新型コロナウイルス感染拡大への対応状況

### 国内営業拠点

#### ウイルスを持ち込まない・うつさない

検温器を設置



オフィス内のパーティション



#### 抗ウイルス抗菌対策を徹底

抗ウイルスコーティングを施工



光触媒除菌脱臭機を設置



### 海外生産拠点

#### ウイルスを持ち込まない・うつさない

入場時の検温



ゴーグル/マスクを着用



#### ソーシャルディスタンスを徹底

生産ライン



社有バスでの通勤



このスライドでは、国内外の事業所における当社のコロナ感染防止対策の様子をご紹介します。

上4枚は、本社を含めた国内事業所の様子、下4枚は海外のEMS工場の様子であります。「ウイルスを持ち込まない、うつさない」ということでは、事業所入り口にはサーモグラフィーを設置、社員だけでなく来社されるお客様も入館時には検温、そして手指消毒を徹底しております。

そして、居室内には、パーティションを置き、飛沫を防いでおります。

さらに、居室内を抗ウイルス抗菌のコーティング施工を行うとともに、先ほどご説明しましたカルテック社の除菌脱臭機を設置して、

「抗ウイルス抗菌対策を徹底」しております。

一方、海外のEMS工場でも、入場時の検温、工場内ではマスク、ゴーグルの着用、

そして生産ラインや通勤のバス内でもソーシャルディスタンスの確保の徹底を図っております。

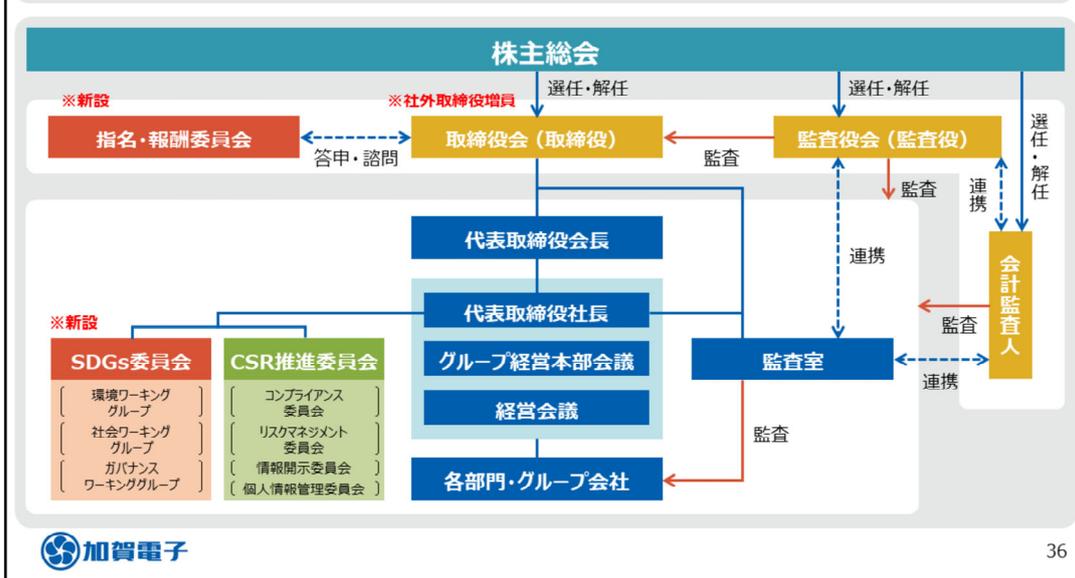
これ以外にも、手洗い、うがい、アルコール消毒はもちろんのこと、工場内では、消毒シャワーや社員食堂では仕切りを設けて

従業員同士の接触を防ぐなど、感染拡大防止に努めています。

これまでのところ、感染者の発生はいずれも単発にとどまっております。どちらかと言えば家庭内感染が中心であり、職場内での集団感染には 至っておりません。

## ガバナンス体制の強化

- 独立社外取締役を1名増員、1/3以上の構成比に（2021年6月29日付）
- 任意の諮問機関として「指名・報酬委員会」を設置（2021年6月29日付）
- グループ横断的にサステナビリティ経営を推進する「SDGs委員会」を設置（2021年4月1日付）



次に、ガバナンス体制の強化についてご説明いたします。

今年のコーポレートガバナンス・コードの改訂、そして来年に予定されている東証の市場区分見直しを見据えて、

当社としても要求事項に対して充分に対応できるガバナンス体制を再構築することとしました。

一つは、独立社外取締役の員数を現状の3名に対して1名増員し、4名とします。

社内取締役は7名おりますので、「1/3以上」を満たすことになります。

そして、任意の諮問機関として、「指名・報酬委員会」を新たに設置いたします。

言うまでもなく、役員の名指しや報酬の決定プロセスの透明性を高めることが狙いであります。

なお、委員長には、社外取締役に就いていただく考えであります。

これら2件は、いずれも本年6月の株主総会後から実施するものですが、それに先駆けて、本年4月から

当社のESG課題に対する取組みを深化させることを目的に、「SDGs委員会」を立ち上げております。

「社外取締役1/3以上」の件も「指名・報酬委員会」の件も、この活動の一環であります。

## SDGs委員会

SDGsに係る基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>従前より取り組んできたCSRおよびESGへの対応を深化させ、<b>グループ横断的にサステナビリティ経営を推進</b>させることを目的として、「SDGs委員会」を設置。</li> <li>「すべてはお客様のために」の経営理念のもと、<b>事業を通じて「社会課題の解決」と「企業としての持続的な成長」を両立</b>させ、持続可能な社会の実現に貢献する。</li> </ul>						
社内推進体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>SDGs委員会は、<b>委員長を代表取締役社長</b>、各部門統括役員等を委員として構成、その直下に「<b>環境</b>」「<b>社会</b>」「<b>ガバナンス</b>」のワーキンググループを配し、これらESG課題に対する方針や施策、目標の策定、進捗状況のモニタリング等を行う。</li> <li>社長直轄の会議体と位置づけ、<b>経営トップのコミットメント</b>のもと、各事業部門・グループ会社とも連携して、SDGsへの取組みを継続的に展開する。</li> </ul>						
取り組むべきESG課題	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="491 663 592 741">環境</td> <td data-bbox="600 663 1295 741"> <ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>脱炭素社会</b>」の実現に貢献するため、当社グループの国内外事業所において「<b>再生可能エネルギー</b>」の積極的な利活用等について取り組む。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 752 592 831">社会</td> <td data-bbox="600 752 1295 831"> <ul style="list-style-type: none"> <li>会社と社員が協力し合い、生活の質向上と持続可能な社会づくりへの貢献に向けて、「<b>ダイバシティ</b>」の推進やwithコロナ時代も見据えた「<b>働き方改革</b>」「<b>健康経営</b>」等について取り組む。</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="491 842 592 929">ガバナンス</td> <td data-bbox="600 842 1295 929"> <ul style="list-style-type: none"> <li>全てのステークホルダーにとって「<b>価値ある企業</b>」であり続けるために、企業倫理と遵法精神に則り、<b>競争力強化を目指したガバナンス構築</b>に継続的に取り組む。</li> </ul> </td> </tr> </table>	環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>脱炭素社会</b>」の実現に貢献するため、当社グループの国内外事業所において「<b>再生可能エネルギー</b>」の積極的な利活用等について取り組む。</li> </ul>	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社と社員が協力し合い、生活の質向上と持続可能な社会づくりへの貢献に向けて、「<b>ダイバシティ</b>」の推進やwithコロナ時代も見据えた「<b>働き方改革</b>」「<b>健康経営</b>」等について取り組む。</li> </ul>	ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てのステークホルダーにとって「<b>価値ある企業</b>」であり続けるために、企業倫理と遵法精神に則り、<b>競争力強化を目指したガバナンス構築</b>に継続的に取り組む。</li> </ul>
環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>「<b>脱炭素社会</b>」の実現に貢献するため、当社グループの国内外事業所において「<b>再生可能エネルギー</b>」の積極的な利活用等について取り組む。</li> </ul>						
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社と社員が協力し合い、生活の質向上と持続可能な社会づくりへの貢献に向けて、「<b>ダイバシティ</b>」の推進やwithコロナ時代も見据えた「<b>働き方改革</b>」「<b>健康経営</b>」等について取り組む。</li> </ul>						
ガバナンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>全てのステークホルダーにとって「<b>価値ある企業</b>」であり続けるために、企業倫理と遵法精神に則り、<b>競争力強化を目指したガバナンス構築</b>に継続的に取り組む。</li> </ul>						

最後に、この4月に立ち上げました「SDGs委員会」について、ご説明いたします。

まず、当社のSDGsに係る基本姿勢ですが、これまで当社が取り組んできましたCSRおよびESGへの対応をより深化させて、サステナビリティ経営を執行することが大事だと考えております。

そのことをグループ横断的に推進していく仕掛けとして「SDGs委員会」を新たに設置いたしました。

事業活動を通じて「社会課題の解決」と「企業としての持続的な成長」を両立させ、持続可能な社会の実現に貢献していきたいと考えております。

次に、「SDGs委員会」の推進体制ですが、わたしが委員長を務め、各部門統括役員等を委員として構成しています。

その直下に「環境」「社会」「ガバナンス」のワーキンググループを配し、これらESGの課題に対する方針や施策を検討し、実行していきます。

社長直轄の組織ですから、経営トップのコミットメントのもと、各事業部門・グループ会社を巻き込んで、SDGsへの取組みを展開していきます。

最後に、各ワーキンググループで取り組むべきESG課題をご説明いたします。

- ・「環境」では、「脱炭素社会」の実現に貢献するため、国内外の事業所において「再生可能エネルギー」の積極的な利活用等について検討を進めます。
- 出来れば、「RE100」を目指したいと考えております。
- ・「社会」では、女性活躍・活用を含めた「ダイバシティ」の推進や「働き方改革」「健康経営」等について取り組めます。
- ・「ガバナンス」では、これからも定期的に改訂されるコーポレートガバナンス・コードについて、継続的に対応することで、

株主はじめ全てのステークホルダーの皆様にとって当社が「価値ある企業」であり続けたいと考えております。

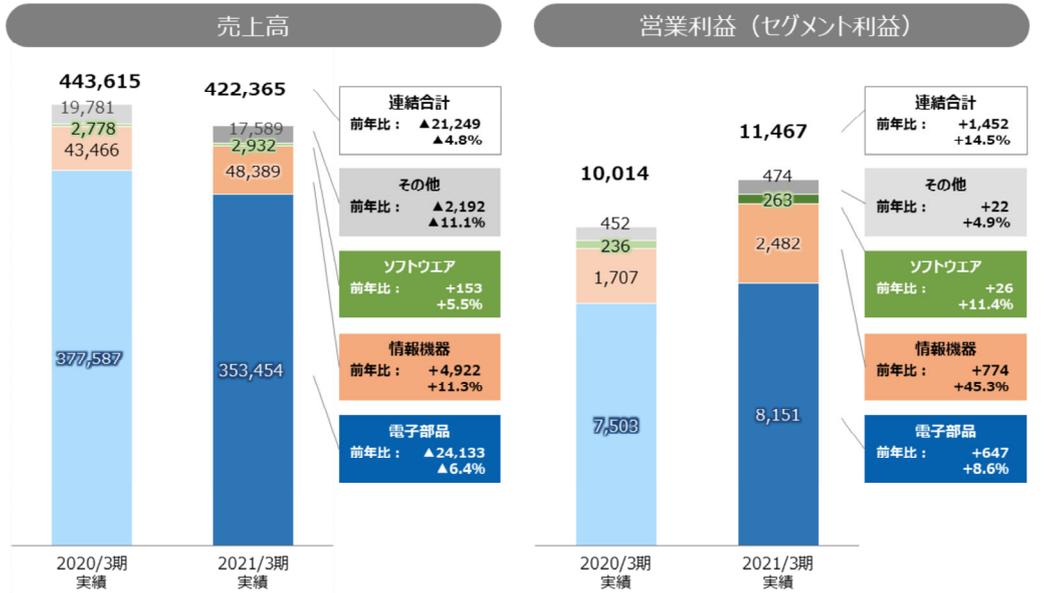
これらの活動のアウトプットとして、今期中に「サステナビリティ中計」のような形でロードマップをまとめ、事業中計とパッケージで、皆さまにご報告したいと考えております。

以上でわたしからのご説明を終わります。  
ご清聴ありがとうございました。

## 參考資料

## 2021年3月期 セグメント別業績

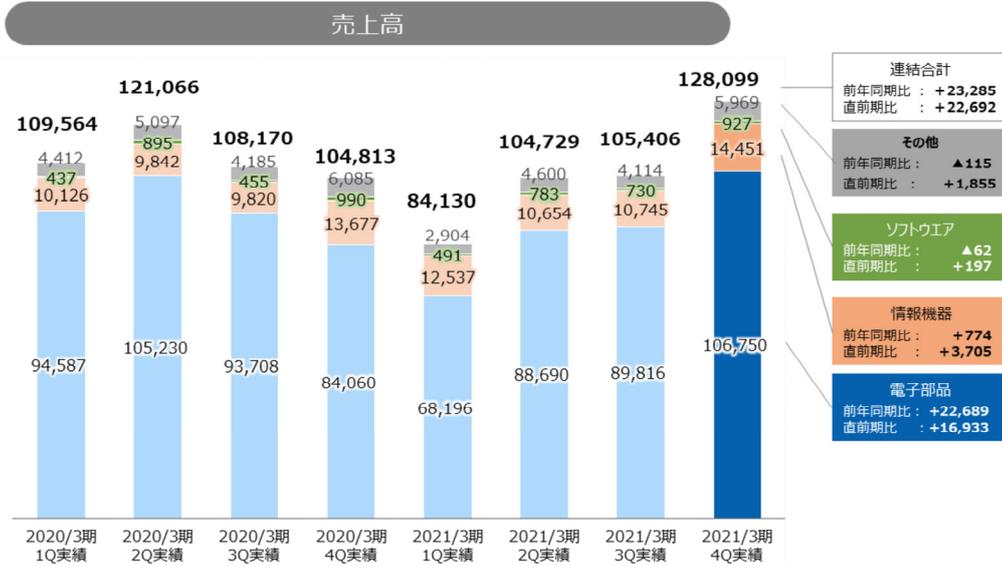
(単位：百万円)



注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

## セグメント別業績 四半期推移①

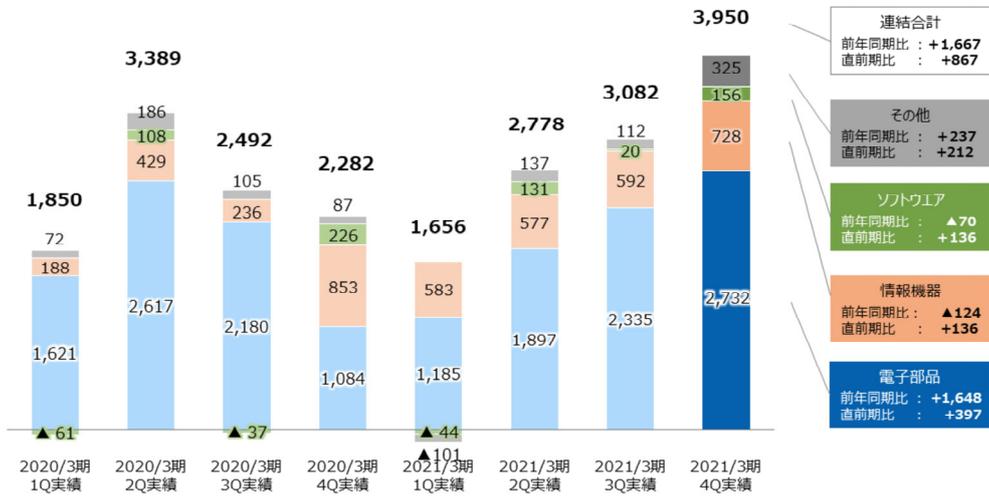
(単位：百万円)



## セグメント別業績 四半期推移②

(単位：百万円)

### 営業利益 (セグメント利益)



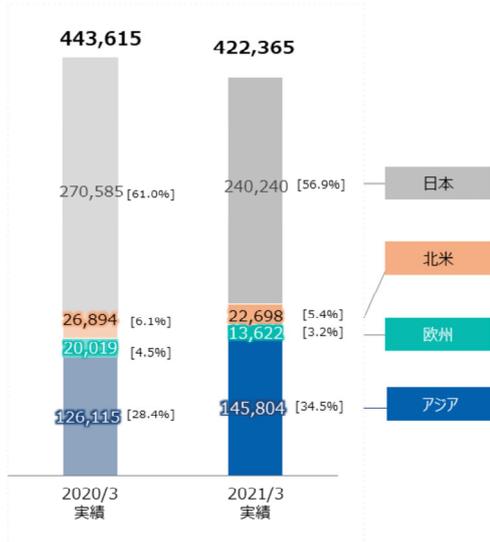
注：セグメント利益については、各事業部門では調整前の数値を記載し、連結合計は調整後の数値（営業利益）を記載しております。

## 2021年3月期：地域別売上高

(単位：百万円)

売上高

前年比

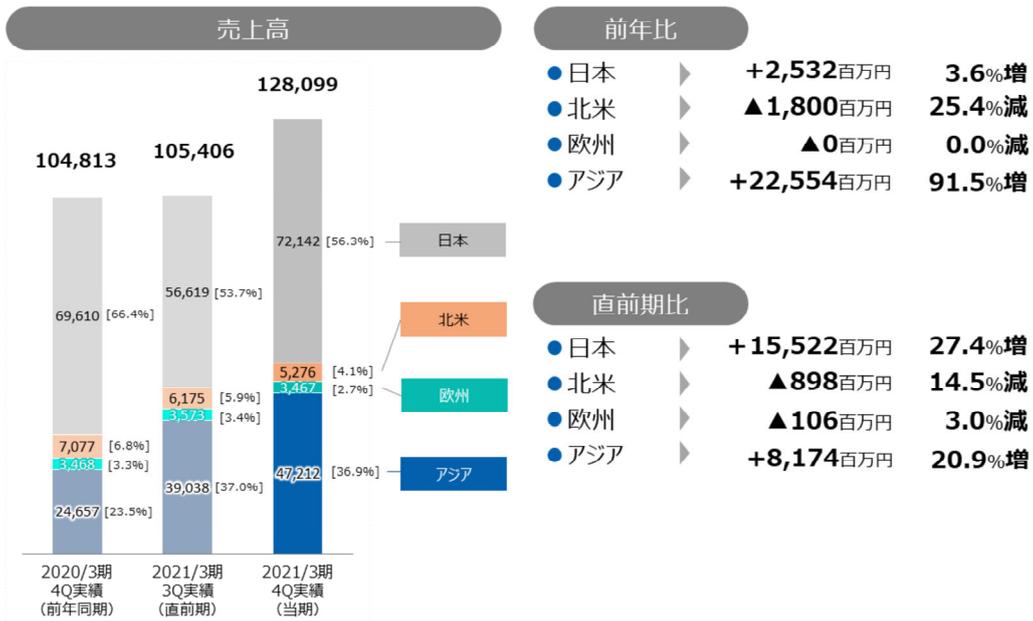


● 日本	▶ ▲30,345百万円	11.2%減
● 北米	▶ ▲4,195百万円	15.6%減
● 欧州	▶ ▲6,396百万円	32.0%減
● アジア	▶ +19,688百万円	15.6%増



## 2021年3月期：地域別売上高（直近3ヵ月）

(単位：百万円)



**前年比**

- 日本 ▶ **+2,532**百万円 **3.6%増**
- 北米 ▶ **▲1,800**百万円 **25.4%減**
- 欧州 ▶ **▲0**百万円 **0.0%減**
- アジア ▶ **+22,554**百万円 **91.5%増**

**直前期比**

- 日本 ▶ **+15,522**百万円 **27.4%増**
- 北米 ▶ **▲898**百万円 **14.5%減**
- 欧州 ▶ **▲106**百万円 **3.0%減**
- アジア ▶ **+8,174**百万円 **20.9%増**

## 為替レート

	2020/3期 実績 (円)	2021/3期 実績 (円)	1%変動による影響額 (百万円)		2022/3期 前提 (円)
			売上高	経常利益	
米国ドル	108.74	106.06	1,558	35	110.50
タイバーツ	3.52	3.42	223	11	3.50
人民元	15.78	15.48	165	9	15.50
香港ドル	13.91	13.68	150	3	14.00

<memo>

---

.....

.....

.....

.....

.....

.....



ご静聴ありがとうございました。

『すべてはお客様のために』



問合せ先：IR・広報室

〒101-8629 東京都千代田区神田松永町20番地

TEL:03-5657-0106

FAX:03-3254-7133

E-mail : webmaster@taxan.co.jp

<https://www.taxan.co.jp>

■ 将来見通しに係わる記述についての注意事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

■ 本説明資料における表示方法

数値：表示単位未満を四捨五入

比率：円単位で計算後、表示単位の一桁下位を四捨五入